

# 日本風景街道の活動を活発化させる取り組み

和田 怜奈

中部地方整備局 道路部 計画調整課 (〒460-8514 愛知県名古屋市中区三の丸2丁目5-1)

日本風景街道は、2005年12月7日に第一回日本風景街道戦略会議を行い、登録・活動が始まった。登録当初は会議も頻繁に行っており、活動を活発的に行っていたが、2005年の登録開始から20年、高齢化、認知度、連携、資金などの課題を抱えており、今は活動の活発化を模索している。地域の実態を把握するため、昨年、中部ルートの意見交換会・現地視察会を開催した。そこで、それぞれのルートの取り組み状況や、苦慮していることなどを情報共有した。今後は、SNSで日本風景街道の取り組みを上手く発信し、他のルートとの連携・対話出来る場をセッティングしたい。

キーワード 日本風景街道、意見交換会、高齢化、日本風景街道キャンパス、現地視察

## 1. 日本風景街道とは

日本風景街道とは、郷土愛を育み、日本列島の魅力・美しさを発見、創出するとともに、多様な主体による協働のもと、景観、自然、歴史、文化等の地域資源を活かした国民的な原風景を創成する活動を促し、以って、地域活性化、観光復興に寄与し、これにより、国土文化の再興の一助となることを目的としたものであり、「地域の資源」と「活動する人たち」、「活動内容」、「活動の場」から構成されるもので、それらを総称して「風景街道」という。

2005年12月7日に第一回日本風景街道戦略会議を行った。何度か戦略会議を行い、2007年9月10日に日本風景街道の登録が開始した。現在、全国では146ルート、中部では20ルート登録されている。

全国に先駆けて2005年3月11日に協議会が設立された北海道では、2025年6月16日に「シーニックバイウェイ20周年記念フォーラム」が開催された。

ルートが登録されている。

三重県にある「伊勢熊野みち」では、花植えや古道の管理などの保全活動も盛んに行われ、「癒しの原風景」や「もてなしの心」が感じられる道となっている。

愛知県にある「新しさからなつかしさ 塩の道～中馬街道～」では、沿線住民や事業所が愛・地球博を契機に始めた、花のあるまちづくり「フラワーロード事業」などの地域活動にも力を入れている。

また、道の駅と連携している風景街道もあり、定期的にマルシェを開催し、収益を風景街道の活動資金にしている団体もある。例えば、静岡県にある「ぐるり・富士山風景街道」では、定期的なマルシェの開催や、オリジナル商品の販売も行っている。

さらに、「道路の魅力向上のために様々な取組を行うことのできる、公的に認められた民間団体」を指定する道路協力団体の制度を活用し、道路清掃や花壇整備、草刈りなどの道路整備を行っている。その他に、ホームページ等から日本風景街道について情報発信を行っている団体もある。

## 2. 中部地方の日本風景街道

日本風景街道の登録は、2005年から始まった。2007年11月1日に、「伊勢熊野みち」が中部で初めて登録されたルートである。その後、「ぐるり・富士山風景街道」や「二つのアルプスに抱かれた「信州伊那アルプス街道」」が登録され、現在愛知県2ルート、岐阜県4ルート、三重県2ルート、静岡県5ルート、長野県7ルートの計20

## 3. 日本風景街道の課題

日本風景街道の登録が始まり、登録団体が増えてきた頃、本省は日本風景街道の活動団体に懸念等アンケートを実施した。アンケート結果<sup>1)</sup>から、主に「高齢化」「認知度」「連携」「資金」に係る課題を抱えていることがわかる。

## (1) 高齢化

活動団体の構成員の高齢化により、ルート内における連携がとりづらい。また、将来引き継いでくれる人がいない。

## (2) 認知度

日本風景街道や各ルートの認知度が低いため、活動の理解が得られにくい問題がある。

## (3) 連携

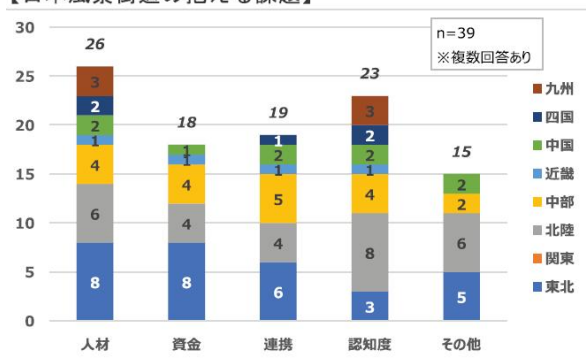
ルート内の連携不足により、活動の停滞を生じている。そのため、行政の積極参加が求められている。

## (4) 活動資金

活動のための資金確保が困難となっている。参加団体による会費収入により活動を行っていた団体では、活動団体の減少により活動資金が減少している。活動資金の減少により、活動の幅が狭まり、活動の妨げになっている。

このような課題で、活発に活動できている団体とできていない団体が混在しているが、相談できる場がない。（他のルートとの意見交換会等がない。）

【日本風景街道の抱える課題】



出典：風景街道令和4年度協働体制の再構築に向けた取り組み状況（令和4年度9月実施）

図-1 日本風景街道の抱える課題

カ所のルートを現地視察した。

## (1) 全国日本風景街道キャンパス（田原市）

意見交換会のテーマは、「自転車」、「景観・環境」、「古道活用」だった。主な意見としては、以下のようなものが挙げられた。

「他のルートと連携し、いろんなアイデアを出していきたい」、「広域連携は大事」など連携を必要とする意見や、「古くからやっている人間と若い人間がそれぞれの役割が必要」、「人材の新陳代謝も重要」など人材育成や高齢化対策に課題が共有された。

また、「観光でPRをしたい」「道をブランドとして発信をしたい」等の意見が挙げられた。

一方、地整への意見として、「連携のきっかけを作り、整備局の役目」と連携づくり一役を期待する意見も出された。

## (2) 中部ルート意見交換会・現地視察（豊田市）

意見交換会のテーマは、「世代交代と活動資金」と、「活動資金とモチベーション確保」だった。主な意見としては、以下のようなものが挙げられた。

「日本風景街道各ルートの連携の強化、そして、道路協力団体との連携の強化」、「それぞれの団体が高め合っていけるような環境が必要」、「ぐるり・富士山風景街道」のように、道の駅との連携も重要」など具体的な提案も出された。

また、「認知度を上げることで、より活動の幅が広がり参加者のモチベーションが上がる」との現場の意見や、資金面に関する状況報告も出された。

自治体側からは、資金面対策として「花の苗の年2回の配布や作業面積に応じ補助金を支給」や「優秀な団体には表彰しモチベーションの確保に努めている」などモチベーション確保でサポートしている。他にも、足助高校の生徒に山村部のバスツアーの案内をお任せしており参加者には大変好評いただいている事例も紹介された。

また、NPO法人より、「風景街道コミュニティ」では無料で相談受付している」など、情報提供の場ともなっている。

## 4. 意見交換会・現地視察（改善策）

以上のような課題を踏まえ、2024年2月22日に田原市で全国の日本風景街道キャンパスが開催された。そこでは、各ルートが一堂に会し、課題解決に向けた意見交換を行われた。同年2024年10月22日には、豊田市で「風景街道中部ルート意見交換会・現地視察」が開催された。今回は、昨年度末開催の全国日本風景街道キャンパスで、「意見交換会とセットで現地視察を開催して欲しい」と意見があったので、中部の日本風景街道ルート関係者を集い、現状報告や課題点などの意見交換会をした後、数



図-2 日本風景街道キャンパス マルシェの様子



図-3 日本風景街道キャンパス 意見交換会の様子



図-4 中部ルート意見交換会・現地視察の様子

## 5. 今後の展開・まとめ

意見交換会・現地視察で、連携や各ルートの交流の場の必要性を認識し、中部地方整備局としての役割を考えると、以下の3つが考えられる。

### (1) 広域連携

中部エリアの日本風景街道の各ルートの連携を強化するため、毎年、年に1,2回は課題解決に向けた意見交換を行える場を設ける。その中で、ルートの課題解決のため、1,2ルートずつ具体的に検討していきたい。

### (2) 体制の構築

それぞれのルートでの課題点や優れている点などを把握し、ルートの活動がより活発になるような体制を築く。

### (3) SNS等からの情報発信

SNS等で日本風景街道の取り組みを積極的に発信していきたい。

以上の対応は、中部地方整備局にしか出来ないもので、積極的に進めたい。そして、日本風景街道各ルート代表者にもご協力いただき、中部地方の日本風景街道の活動を活発化させていきたい。

### 参考文献

1) 日本風景街道の抱える課題：風景街道令和4年度協働体制の再構築に向けた取り組み状況（令和4年度9月実施）